多高通信

第171号　令和元年　10月29日発行

さどく　ゆたかに　たくましく
宮城県多賀城高等学校

熱戦　体育祭！

10月10日、本校グラウンドで体育祭が行われました。10月8日に予定されていましたが悪天候のため順延されての実施となりました。

秋晴れの空の下、7クラス縦割りでの熱戦が繰り広げられました。

■体育祭実行委員長

3年1組　佐々木菜緒（東豊中出身）

10月10日、無事に体育祭を実施することができました。悪天候による順延となってしまいましたが、当日は好天の中で白熱した体育祭になったと思います。

今年の体育祭は、皆さんはどう感じたでしょうか。楽しかった、クラスのつながりが強くなったなど、それぞれで思い出になってくれれば良いと思っています。

私は実行委員長として運営する側としてその難しさを痛感しました。しかし、ほかの実行委員や先生方、協力していただいた運動部の方々のおかげで無事に終了できたのだと思っています。反省点は多々ありますが、成し遂げた達成感を得られた有意義な経験となりました。体育祭に関わってくださった皆さん、ありがとうございました！

玉入れ。
一発逆転の
フリースロー！

部活対抗リレー。
様々な部が
入り乱れての
競争です！

「世界津波の日」2019　高校生サミット in 北海道

9月10日・11日の2日間、北海道立総合体育センターで「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道が行われ、本校から3名の生徒が参加しました。今年は"記憶を未来へ、備えを明日へ"～北の大地からイランカラッテ～」をテーマに、日本を含む世界144か国の高校生が参加しました。1日目の分科会は、日本、アルゼンチン、パラオ、タイの高校生によるディスカッションが英語で行われました。本校は、これまでの防災活動の取組、今後の課題などについて発表しました。その後、分科会ごとに提言をまとめました。2日目は分科会ごとの発表を行いました。自然災害などの現状や原因、防災などを学び、広めていくこと、地域社会の安全活動や復興に向けた取組に進んで参加・協力し、貢献することなどが発表されました。

サミット全体を通して、本校での取組を海外に伝える良い機会になったのはもちろん、英語で討論をしたり、海外の高校生と交流したりと貴重な経験ができました。これらを踏まえて、今後も防災・減災の意識を高める活動へ繋げたいと思います。

■1年7組　松浦　康生（利府中出身）

今回の津波サミットで「津波が来る前」と「津波が来たあと」の2つの行動について考えました。「津波が来る前」では沿岸地域のハザードマップの作成を、発災前に危険箇所や避難場所の確保などを行うという結論に至りました。「津波が来たあと」では情報共有のため、若者はSNSによる情報の確認、高齢者へはTV・ラジオ・新聞で情報の確認をして、デマを防いで安全に避難させるという結論に至りました。また、今回の開催地は北海道であり、これまで数多くの自然災害が発生してきたところです。私たちは東日本大震災で、都市型津波によって実際に被害を受けた多賀城市にある高校として津波の恐ろしさなどをしっかりと他県・他国の人に発表することができました。ほかにも、私自身は海外に行ったことがなく、外国人と英語で話す経験をほとんどしたことがなかったので、外国の高校生と話してみて、自分の英語力を上げるきっかけにもなりました。今回の貴重な体験を今後の活動に活かしていきたいです。

外国の高校生と英語で交流しました！

シチズンシップ教育　裁判制度講座

10月3日、シチズンシップ教育の一環として、3年生を対象にした「裁判制度に関する講座」を開催しました。今回は、仙台地方検察庁より児島隆司さんを講師にお迎えし、検察庁の仕事内容や組織に関すること、事件発生から起訴に至るまでの流れ、そして「裁判員制度」の仕組み等についてお話をいただきました。

■生徒の感想

私は今回の話のような分野に興味があるので、聞いていてとても面白かったし、ためになる話だと思いました。事件が一つ起こると、警察だけではなく検察庁の方々も捜査をすると聞いて、犯人を特定するためにたくさんの人が動いていることが分かりました。もしかしたら、将来裁判員として選ばれて、一人の人の今後の運命を決める行為に加わることがあるかもしれないので、今回聞いたお話を思い出して、公正に判断できるようにしたいと思います。（3年女子）

人生の先輩に聞く　第二弾　仙台89ERS　志村雄彦氏

10月3日、プロバスケットボール・仙台89ERSの志村雄彦さんをお呼びしてお話を伺いました。志村さんは昨年の5月に現役選手としてのキャリアを終え、現在は仙台89ERSのゼネラルマネージャーとしてチームを日本一にすることを目標に活動しています。

今回の講演会では、自身の高校時代のお話や好きなモノをみつけること、変化を恐れずにチャレンジすることなどについてお話ししていただき、生徒からの質問にも丁寧に答えていただきました。

■生徒の感想

志村さんのお話の中で印象に残ったのは「好きなものを見つける」についてです。私は小さい頃いろいろな習い事をしていて、自分に合わないと思うとすぐにやめてしまいました。志村さんと同じ小学三年生のときにバスケットボールを習い始めましたが3日でやめてしまいました。周りにどんどん引き離されていき、このまま続けても上手くなれるか疑問に思ってしまい、楽しいと思えなければ意味がないとも思いました。自分は何をやってもすぐあきらめてしまう人間なんだと思っていましたが、母が「たくさん挫折した分多くの経験ができるんだから自信を持って」と私に言ってくれ、自信を持つことができました。志村さんが言っていた「変化を恐れずにチャレンジする」ということはまさにこのことだなと思いました。

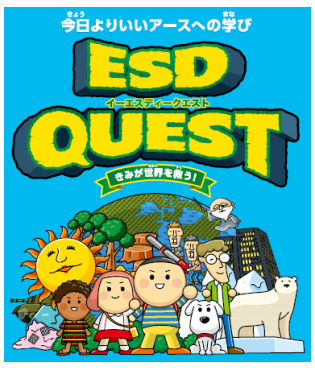
今では自分の本当に好きなものに磨きをかけるため日々努力をしています。志村さんが言っていた「努力と結果は必ずしも比例するわけではなく、自分の成長につながって初めて結果が出る」ということを頭に入れて、失敗してもそれが経験となり成長できることを信じ頑張ります。本当にありがとうございました。（1年女子）

■保護者の感想

子供たちに伝えたい志村さんの言葉が保護者の私にも深く響きとても勉強になりました。志村さんは長いキャリアをお持ちであるにもかかわらず、現役選手の頃からとても謙虚で、どのようなお人柄なのか、どのような家庭環境でお育ちになったのかとても興味がありました。志村さんは才能だけではなく、並外れた努力をされてきたことを今回初めて知りました。子に対して私は「ダメ」、「このようにした方が良い」など否定的な言葉や失敗しない近道を投げかけてしまいます。私は褒めることに不慣れで押し付け、子自身で考える機会を与えてこなかったのだと気付きました。志村さんに教えていただいたことを日々の中で意識しながら生活していきたいと思います。

創立記念行事　ESD学習発表会

10月15日、本校体育館で創立記念行事・ESD学習発表会が行われました。ESDとは Education for Sustainable Development の略で 持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。宮城教育大学国際理解教育研究センターでESDの研究を行っている市瀬智紀先生と、学校評議員の渡辺博信様をお迎えし、本校生徒が前期に取り組んだESD学習についての発表を行いました。



また、当日は、北海道旭川市で子どもたちの夢や希望を応援するまちづくりを目指した事業 あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト」で大賞を受賞された、旭川市立緑が丘中学校1年の原田樹里さんも見学に訪れました。原田さんは、緊急災害時に活躍する特別医療チーム DMAT」として活躍するという夢に向かい、本校災害科学科の授業を通して防災・減災について学ぶための研修の機会として本校を訪れました。

今回の発表では、⑴国際交流 世界津波の日高校生サミット in 北海道」⑵防災学習 全国防災ジュニアリーダー育成合宿 東北」兵庫県・高知県高校交流」⑶ボランティア活動 鶴ヶ谷復興住宅 夏祭りボランティア」⑷自然科学学習(SSH) 室蘭栄高校・釧路湖陵高校 合同実習」SSH生徒研究発表会」つくば研修・関東研修」の計7本の発表が行われました。紙面では、このうち、⑵防災学習 の 全国防災ジュニアリーダー育成合宿 東北」高知県高校交流」について、生徒の発表をそのまま掲載いたします。

・・・・・・・

全国防災ジュニアリーダー育成合宿　東北

8月17日(日)～19日(月)に花山で行われた 全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に参加してきました。この合宿は、東日本大震災をはじめとした多くの災害が頻発している日本において、災害への対策の現状を発表し合い、同時に次世代の人材育成、防災意識の向上を目的とし行われました。会場は多賀城高校をはじめ国立花山青少年自然の家、栗駒山麓ジオパークセンターの施設を利用して行われました。

1日目は、多賀城市内で まち歩き」を行った後、国立花山青少年自然の家に移動しました。夕食後、生徒の親睦を深めるためアイスブレイクを行いました。はじめは緊張しましたが、徐々に全国の高校生と打ち解けることが出来ました。その後、東日本大震災で被災して以来、語り部として活動されている石巻の高校生のお話を伺いました。 語り部の高校生らは、紙芝居を用いて震災で友人を亡くした心の傷を表現し、その後どのように立ち直っていったかについて話してくださいました。一生懸命に心の痛みと向き合う姿が印象的で、多くの参加者が涙を流していました。

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に参加して

2日目は、演習や講演を中心に行われました。最初はDIGと呼ばれる演習です。DIGとは、地図を囲みながらグループで想定した災害に対して、避難方法や対応策を考える演習のことで、多賀城高校の生徒が作成したオリジナルのもので行われました。演習は多賀城高校の生徒がファシリテーターとなり、グループの話し合いをリードしながら行われました。参加者は単純なゲームに参加しながら、避難する上での条件を考慮し、最善の避難経路について話し合っていました。時には冗談を交えながら、参加者は様々な視点から避難方法について考えている様子でした。

合宿2日目

午後からは、栗駒山麓ジオパークのガイドさんのもと、国立花山青少年自然の家近隣にて沢活動を行いました。この土地の地形は3日目に見学予定の2008年に起こった荒砥沢地すべりの現場とよく似た地形であり、川の岩石や地層の様子を観察しながら活動を行いました。沢活動の最後には全員、深みに飛び込み、花山の自然を体全体で楽しむことが出来ました。

夕食後、グループに分かれこの2日間で学んだことや感じたことをもとに、 全国・世界の、未来の高校生に伝えること」をテーマにポスターセッションを行いました。各グループが自分たちの意見の共通点や伝えたいことを模造紙にまとめましたが、どのグループも熱のこもった議論が行われました。

3日目は、国立花山青少年自然の家から移動し、2008年の岩手・宮城内陸地震の現場を見学しました。見学した場所は、駒の湯温泉と荒砥沢地すべりの2ヶ所です。当日は、宮城県築館高校の生徒がガイドとなって各グループを案内してくれました。

写真は駒の湯温泉でのものです。いまでも土砂崩れの後が確認できました。地震を体験した駒ノ湯温泉のご主人からのお話を伺い、当時の土砂崩れの様子や復興までの取り組みについて伺いました。また、荒砥沢地滑りは、国内でも最大級の地震による地すべりの現場だということが初めてわかりました。今回は地滑りの現場を、山の上側から、その下側にあるふれあい公園から見学しました。参加者はその地滑りの仕組みを理解し、またスケールの大きさに触れることが出来ました。閉講式は、栗駒ジオパークビジターセンターで行われ、2泊3日の日程を終えました。最後は2名の生徒から今回の合宿について感想が発表されました。

合宿3日目

高知県高校交流

高知県高校生交流活動は7月29日に行われ、高知県の11の高校、計28人の高校生と交流しました。天気は晴れで気温も高く、猛暑の一日となりました。

理研食品では、被災当時のお話を映像とともにしていただきました。理研食品は海から近いため、工場は甚大な被害を受けましたが、工場で働いている職員は普段から避難訓練をしていたため、亡くなった方はいませんでした。被災後は工場のいち早い復活のためにがれきの撤去や製造ラインの復旧に力を入れていたそうです。工場が使用できるようになった後は被害の教訓を得て重要な機械などを高いところに設置したそうです。

まち歩き」は多賀城イオンから出発し、様々なところを回るのですが、この日は猛暑だったため、短いルートで回りました。道中には多賀城高校が電柱に設置した津波波高標識も説明しながら多賀城駅を目指しました。津波波高標識とは市内を襲った津波がどのくらいの高さに達したのか調査、測定し、道路脇の電柱に設置しているものです。

午前の行事がすべて終了後、高知県の高校生と多賀城高校の生徒でお弁当を食べました。この時間で高知県の高校生と交流を深めることができ、午後に行うワークショップを良い雰囲気で行うことができました。

午後の部を行うに当たり、開会行事を行いました。校長先生のお話では、今回学んだことを南海トラフ地震の防災、減災に活かしてほしいというお言葉をいただきました。その次には多賀城高校の学校紹介、高知県の参加校の学校紹介をしました。

ワークショップでは、仮想の地図を使って災害時の行動を考えながら、グループごとの意見を出し合いました。実際にワークショップをやってみると、高知県の高校生は互いに考えを出し合いながら、決定した避難場所を目指していました。最後には話し合ったグループの意見を全体に発表しました。避難場所は同じでも異なるルートや異なる考えがありましたが、ほとんどのグループが身を守ることを第一に考え、行動をしていました。このワークショップをこれからの防災活動に活かしてほしいなと思いました。

閉会行事では、高知県の参加校の代表の方が今回この行事に参加して学んだことを発表していただきました。最後には全員で記念撮影を行い、別れを惜しみました。